

「先輩方の熱意に負けないように」

室井さとみさんがベルマーク大使に就任

愛知県豊橋市のベルマーク大使が今年5月、本田太絵子(旧姓・岡田)さんから室井さとみさんに交代しました。

市の活動をまとめている豊橋市教育委員会教育政策課のベルマーク担当に最初に就任をお願いしたのが2018年10月。人事異動のため岡田さんにバトンが渡り、さらに今回の異動で就任したのが室井さんです。

室井さんは2年間の育児休業を経て職場復帰し、教育政策課に配属されました。出身は静岡県浜松市ですが、豊橋には親戚がいることから子どもの頃から馴染みのある地域だそうです。

「これまでの大使の熱意に負けないよう頑張ります！」

と熱く語る室井さん。配属を機に、ベルマーク活動への意識は高まり、最近では業務中だけでなく普段の生活でもベルマーク集めに夢中です。

回収拠点の豊橋市役所の受付カウンターにはベルマーク回収箱を置いて協力を呼びかけているほか、使用済みのカートリッジも順調に集まっています。「市民の皆さんが気軽に持ち寄ってくれることから、豊橋にベルマーク運動が定着しているのが分かります」

市のベルマーク活動の目標は1000万点を集めること。さらなる追い風となったのが10月、3年ぶりに開かれた「豊橋まつり」です。市役所1階にベルマーク

のブースを設け、クイズなどを通して活動をアピールしました。同じくベルマーク大使で、協賛会社のジブラルタ生命保険(ベルマーク番号15)の松本哲さんや、ラッキーベル(ベルマーク番号03)の脇川雅之さんも会場に来てくれました。ベルマーク運動の意義を熱く語っていたふたりの姿を見て、目標達成への思いがより一層強まったとのことでした。



大使の委任状を持つ室井さとみさん

今年2回目の寄贈、オイスカ浜松国際高校へ

タカラ・エムシーとキリンビバレッジ、社員が仕分け体験も

静岡県を中心にスーパーマーケットを展開しているタカラ・エムシー(本社・静岡市駿河区)と、協賛会社のキリンビバレッジ(ベルマーク番号54)が共同キャンペーンと回収箱の設置で集めたベルマークを11月9日、オイスカ浜松国際高等学校(鬼石貞治校長、生徒273人)に寄贈しました。

キャンペーンの実施は2回目です。前回の贈呈式は今年2月に開かれたばかりで、短い期間でありながら、前回の倍を超える量のベルマークが集まりました。

会場の視聴覚室には奉仕活動委員会の生徒と、タカラ・エムシーの上野拓社長をはじめとした関係者が集まりました。全校生徒が各教室からリモートで見守る中、上野社長が代表生徒に手渡したのは、フードマーケットマムのオリジナルマイバッグ3袋に詰まったベルマーク。「前は1袋でしたが、フードマーケットマム全店舗に回収箱を置いたところ、こんなにたくさん集まりました」と説明したのはタカラ・エムシーの戸田晴奈さんです。

マークの寄贈を受けて、奉仕活動委員が最近の活動について報告しました。貯めたベルマーク預金は海外の子どもたちを助ける「友愛援助」への寄付に使っていること、寄付先を選んでる公益財団法人オイスカの「子供の森」計画は1991年から長く続いている植林活動であ



⑤キリンビバレッジから1人1本提供された商品を手にとって ⑥タカラ・エムシーの上野拓社長もベルマーク仕分けを体験

ること、そして、キリンビバレッジのような協賛会社にこれからも活動を応援してもらいたいことを伝えました。

「社会貢献は継続していくことが大事。ぜひまた協力したい」と心強いメッセージで贈呈式を結んだのは上野社長。オイスカ高校の鬼石校長は「校内だけだった活動からの突破口をいただいた」と協力してくれた企業に感謝を伝えました。

タカラ・エムシーとキリンビバレッジの社員は、ベルマークの仕分けも体験。2年生の教室で生徒に交ざって、たくさんのマークの中からキリンビバレッジのものを取

り出していきます。生徒が伝えていたコツは、ベルマーク番号の「54」という数字や「生茶」の緑色、「キリンレモン」の黄色いレモンのマークを頭に思い浮かべながら手を動かすこと。社会人と高校生が交流する貴重な機会にもなったようです。



「地元の子どもの明日を応援!」と題した今回の企画。キリンビバレッジの商品についているベルマーク1枚以上と、その商品を含む550円以上のレシートを送ると、抽選で静岡の特産品が当たるキャンペーンでした。

「ベルマークを集めて新潟の魅力が当たる!」キャンペーン

キリンビバレッジは12月1日(木)から、「ベルマークを集めて新潟の魅力が当たる!キャンペーン」を始めました。同社製品のベルマークを集めて応募すると、その点数に応じて、新潟県にちなんだ賞品が当たります。

応募はがきは新潟県内の一部の量販店、自動販売機、一般小売店にあります。同社の生茶、生茶ほうじ煎茶、生茶デカフェ、小岩井純果汁シリーズ、キリンレモンシリーズ、キリンラブズスポーツのベルマーク付き商品に付いているマークを貼って送ります。

賞品は2つのコースがあり、ベルマーク5点のAコースは「にいがた和牛モモ焼肉用500g」が5人に、同4点のBコースは「新潟県産コシヒカリ5kg」が20人に当たります。A・Bコースの抽選にはずれても、40人にWチャンスとして「キリン生茶1箱(525ml、24本入り)

が当たります。

応募締切は2023年1月6日(金)、当日消印有効。問い合わせはキャンペーン事務局(0120-685-036)へ。



「茨城ロボッツとスペシャル体験」キャンペーンも実施中

バスケットボールBリーグの茨城ロボッツとキリンビバレッジは12月1日(木)から共同キャンペーンを実施しています。「ペアチケットが当たる! 茨城ロボッツとスペシャル体験キャンペーン」は、キリンビバレッジ製品のベルマークを集めてはがきに貼り応募すると、その点数に応じて抽選で賞品が当たる企画です。

応募はがきは茨城県内の一部の量販店、自動販売機、一般小売店にあります。キリンビバレッジのホームページからダウンロードもでき、応募は全国から可能です。

賞品には3つのコースがあり、ベルマーク6点のAコースは「茨城ロボッツ ペア観戦チケット」が10組20人に、同6点のBコースは「茨城ロボッツ公式グッズセット」が10人に、同3点のCコースは「キリン イミューズレモン500ml 1ケース(24本入り)」が20人に当たります。

応募締切は2023年1月20日(金)、当日消印有効です。問い合わせはキャンペーン事務局(0120-685-036)まで。



日本水産、「ニッスイ」に社名変更 ブランドシンボルも新しく

協賛会社の日本水産(ベルマーク番号04)は2022年12月1日付けで、社名を「ニッスイ」に変更しました。ベルマークの扱いに影響はありません。

社名変更に伴って、ブランドを象徴するシンボルとタグラインも新しくなりました。

ブランドシンボルの表記はカタカナから「nissui」とアルファベット表記になりました。左右から描かれている2つの波が統合して、フレームを形作っています。ニッスイと生活者との双方向コミュニケーションを表現し、事業の原点である水産資源への想いも込められています。

ブランドシンボルに添えられるのは「まだ見ぬ、食の力を。」というタグライン。水産の粋をこえて、まだ見ぬ食の可能性を追い求めていく」という、新たな歩みに向けての決意を表しています。

同社が協賛会社になったのは1960(昭和35)年。「大きな大きな焼きおにぎり(ベルマーク5点)」や「おさかなのソーセージ(同4点)」などにベルマークが付いています。

